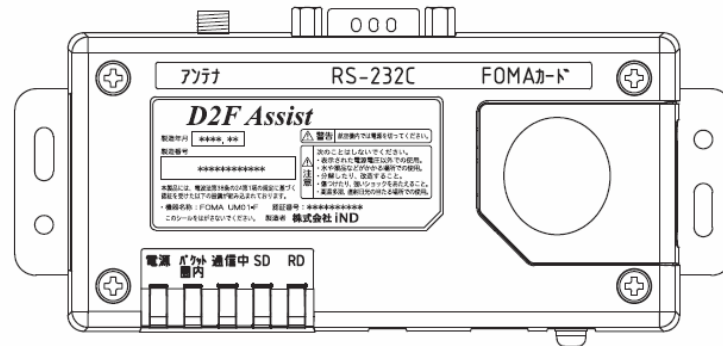


まいぐれ

導入編



株式会社 iND

DoPaのシステムをFOMAに移行するには・・・

①マイグレーション

現在DoPaにて使用されている*Mobile Ark* 各機種やDoPa網はそれぞれ特有の個性があります。ほとんどのお客様システムの場合、その個性も含めた状態でシステムを構築しているため、FOMAへ移行した場合その部分がトラブルの原因となり、動作しないという可能性もあります。そういったマイグレーションの落とし穴に陥らないためにも慎重な機器選びが必要になります。

②アダプタ選択

FOMAへの移行をお考えのお客様は、移行に最適な*D2F Assist* をFOMAアダプタとして選択いただくと、スムーズに移行できるようiNDがお手伝いします。

③FOMA契約

DoPaよりFOMAへ移行される場合、お得なキャンペーンなどもございます。DoPaからFOMAへの契約変更はNTTドコモにご相談ください。
<http://www.docomo.biz/>（ドコモビジネスオンライン）

本文中の『DoPa』『FOMA』『Mobile Ark』はNTTドコモの商標または登録商標です。
また、D2F AssistはiNDの登録商標です。

システムの役割

DoPa/FOMAのシステムにおいて、通常データ通信を実現するために以下のStepで通信しています。以下のStepを1台でこなす端末装置もあれば、間にプロトコルコンバータが介在してStep1,2,3もしくはStep2,3を分担しているケースもあります。

Step1. 回線接続(ダイヤル発着信)機能

ATD XXXX~, CONNECT などのモデムコマンド(ATコマンド)による通信

Step2. PPP接続

LCP・IPCPなどのPPPネゴシエーション, CHAP/PAPなどのPPP認証

Step3. TCP/UDP接続

TCPやUDPなどのデータ通信プロトコル

} プロトコルコンバート
機能

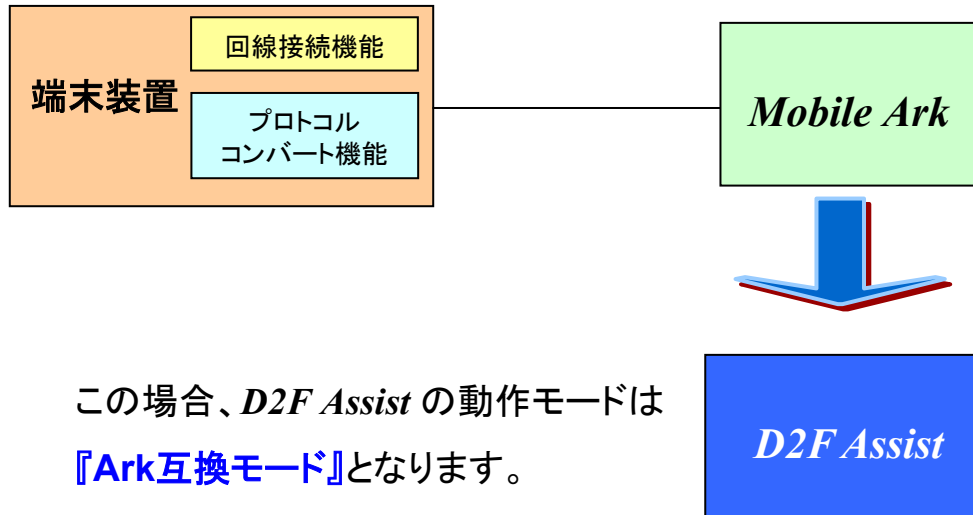
Step4. データ送受信

実際のデータ通信

まいぐれ Case1.

Case1.

端末装置が回線接続機能を持ち、PPP, TCP or UDPのプロトコルコンバート機能を持ち、データを通信する機器の場合。(PC, メール送信機能を持つ端末装置など)

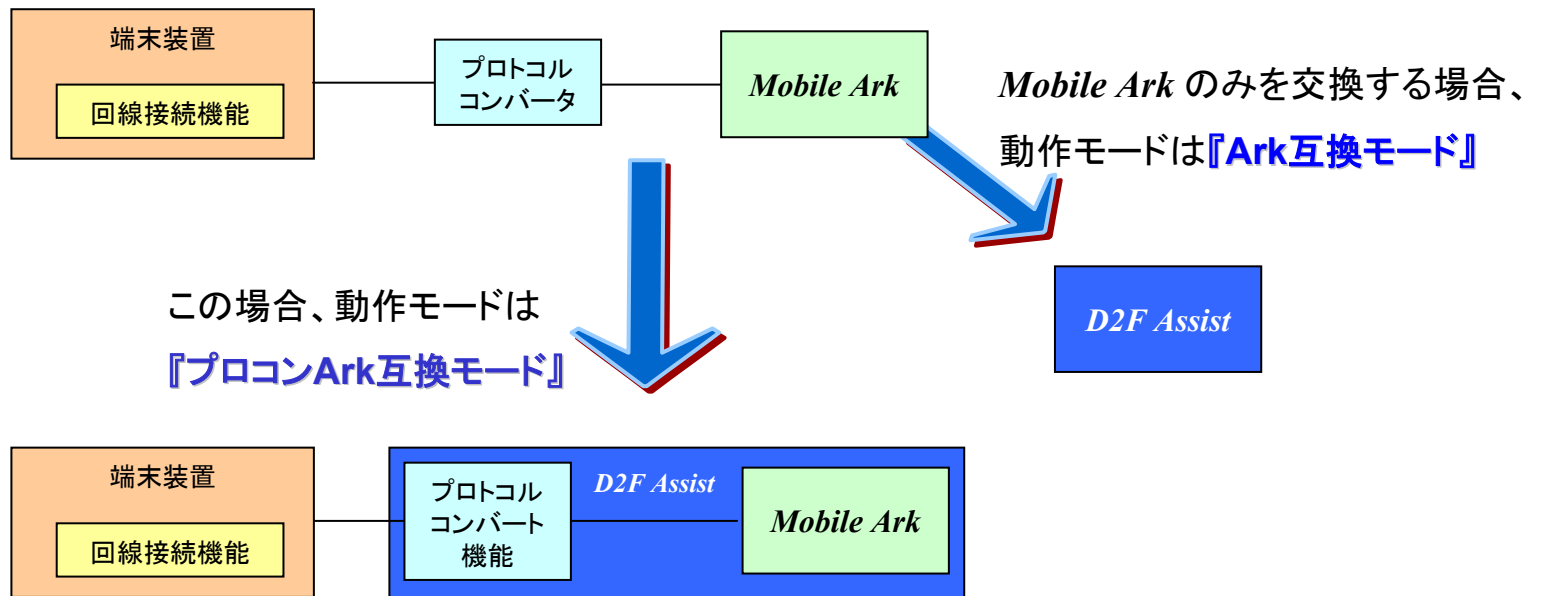


この場合、*D2F Assist* の動作モードは『Ark互換モード』となります。

まいぐれ Case2.

Case2.

端末装置が回線接続機能を持ち、プロトコルコンバータを介しデータを通信する機器の場合。

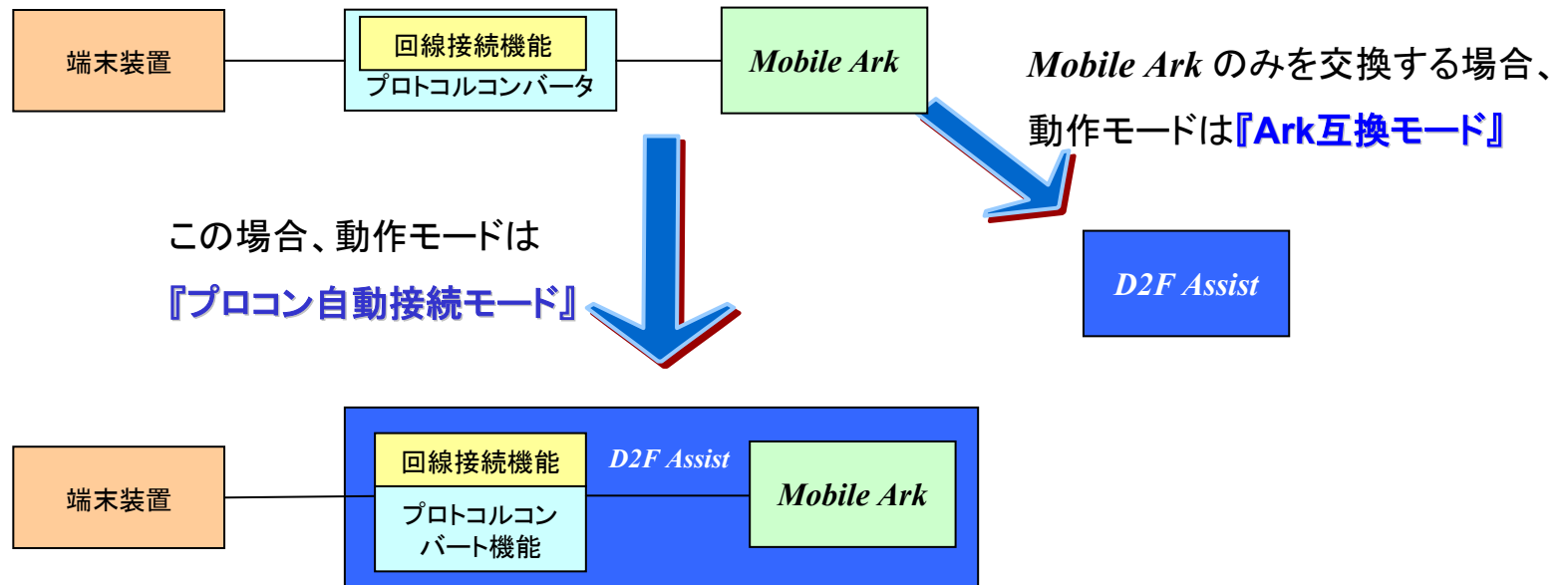


プロトコルコンバータの機能によっては『プロコンArk互換モード』に移行できない可能性もありますのでご注意ください。
弊社製品のHDT-RS3+Arkからの移行の場合、P124F5電源制御ボックスを間に入れることで安全に移行できます。

まいぐれ Case3.

Case3.

端末装置がデータ通信のみで、プロトコルコンバータが回線接続及びプロトコルコンバート機能を有する機器。



プロトコルコンバータの機能によっては『プロコン自動接続モード』に移行できない可能性もありますのでご注意ください。
弊社製品のHDT-RS3A+Arkからの移行の場合、P124F5電源制御ボックスを間に入れることで安全に移行できます。

まいぐれ*D2F*シリーズ

- ① まいぐれ 導入編
- ② まいぐれ Ark互換編
- ③ まいぐれ プロコンArk互換編
- ④ まいぐれ プロコン自動接続編

お問合せ先



〒103-0016

東京都中央区日本橋小網町3番18号(カネトモ第二ビル)

TEL:(03)3664-5552 FAX:(03)3664-5553

URL: <http://www.i-netd.co.jp>

Mail: <mailto:info@i-netd.co.jp>

営業部まで